

# 放射線検査を受けられる方へ

放射線科科长 鈴木 俊之

放射線検査を受けるときに被ばくについて考えることがあるのではないのでしょうか。今回は、放射線検査を行う理由と放射線の身体への影響についてお話しします。



## 1 放射線検査を行う理由

放射線を使う検査は身体に負担をかけずに病気やケガを診断し、適切な診療に役立てるために行います。検査に使用する放射線は被ばくを伴いますが、必要な範囲に限定し、かつ放射線の量も必要最小限となるよう管理しています。病状によっては繰り返し何度も検査を行うような場合もあり、身体への影響を心配される方もいらっしゃると思います。

しかし、検査結果をもとに医師が適切な医療行為をすることで、検査のリスクよりも病気やケガの状況がわかる利益のほうが大きくなります。

## 2 放射線の影響について

放射線の影響には「確定的影響」と「確率的影響」の二つがあります。

### ① 確定的影響

『ある一定の線量（しきい値）を越えると人体に障害がでてくる』という影響になります。放射線の浴びた集団において1～5%で放射線の障害が発生する線量を「しきい線量」として決められています。しかし、これを超えたからといって必ず障害が起きるという意味ではありません。

当院の放射線検査で使用する線量はしきい値よりとても少ないので、身体的症状が現れることはありませんのでご安心ください。

安心  
安全

### ② 確率的影響

『発がんや遺伝的影響に関する』影響で、しきい値はなく線量の増加に伴い発症率も上昇していくものになります。しかし、放射線による発がんのリスクは極めて低く、飲酒・喫煙・運動不足などの生活習慣に起因する発がんリスクのほうが高いと考えられています。



## 3 被ばく低減への取り組み

DRLs（診断参考レベル）を参考に画質を担保した撮影条件の最適化を行っております。

DRLsとは、放射線診断で用いられる標準的な線量を調査した結果で、それに基づいて導入されたものになります。

安心  
安全

当院では被ばく管理システムを使用し、適切に被ばく線量の管理を行い、定期的に医療放射線安全管理委員会を開催し放射線の適正管理を行っています。

